

厳しい環境は励みになる。

農業人として25年。なせばなる<sup>(※1)</sup>

高普第15回卒 西 一信<sup>(※2)</sup>



農業人として25年、周囲では、“農業は今、大変な時期”と騒ぐが、農作業を辛いと思ったことはない。

厳しい環境は仕事の励みになる。  
辛いと思うならぜひやめてもらいたい。

「我々に任せてくれ！」  
と私は言いたい。

農業には、多くの楽しみもある。  
10.8 haの水田を中心に多角的集約型の経営をめざす中で、消費者何人を食べさせることができるか、独自のソフト開発とマイコン利用でコスト・ダウンは、どれだけ可能かなど頭と腕次第で創造力を逞しくして生活できる。

定年制がなく、食欲になって吸収し、上を求めて限りなく挑戦できるもの、元来の機械好きが多くの機種を動かせること、米(アメリカ)及び西欧5ヶ国を訪問して得た友人、知識や楽しみは農業人であった為と思う。

現在の農業は、多くの他業種や消費者との交流が必要になっている。  
農業以外の学校を出たことは、その意味でもプラスになる。  
夢ある農業を続け「なせばなる」と思う毎日である。  
夢とは欲である。

(※1) 創立90周年記念誌『紅の旗』(1988(昭和63)年9月2日発行)

「今こそ伝えたい、希望と勇気を」==OBから若駒への熱きメッセージ==より。

(※2) 昭和38(1963)年卒、鹿島出身。